

全国大学書道学会

会報

5

平成19年(2007)
3月31日発行
全国大学書道学会

平成十八年度

全国大学書道学会愛知大会 報告

愛知教育大学 風岡 正明

平成十八年度全国大学書道三学会は、十月二日～四日の三日間にわたりに行われ、うち当学会は最終日の四日に本年度の総会、及び研究発表大会が開催された。また、当学会会員による書作展が同会場内の展示室にて開催された。

総会は予定通りに進行し、研究発表も午前二会場でそれぞれ三件、午後一会場で三件の計九件の発表が順調に進められた。これは学会の役員諸氏の努力、会員の協力に負うところが大きく、感謝している。

会員書作展は、設備の関係で壁面展示が難しく、結果的に机上での展示となった。作品規格は半切の三分の一と、大きさではややもの足りなさを感じないわけでもないが、内容的には多彩で充実した展覧となった。出品点数が例年に比べ、また会員数の割には少なかつたのは残念であった。

会場は名古屋国際会議場を使用した。名古屋駅から交通の便が良く設備もよく整っていて参加者の評判も上々であった。難点は使用料が安く

はないこと。大学の設備を利用すればその点は解消され、しかも何かと便利であるが、地理的に宿泊の面で不安があった。学会は大学で開催するのが原則であろうが、右の理由でやむなく学外での開催となった。

記念講演は地元で適任者を推薦してほしいということで、交渉の結果、徳川美術館企画情報部長の四辻秀紀氏にお願いすることができた。「平安時代の仮名」をテーマに、会員外の地元の教員や書道愛好者多数の参加を得て盛会であった。

開催に向けて一年以上前から役員・事務局の方々と打ち合わせを重ね、万全を期したつもりでも何かと至らぬ点も多々あったことと思う。この場を借りてお詫びしたい。細々とした事務的な準備は、過去の開催大学の記録が大いに参考になり、有り難かつた。なお、会員書作展の作品締め切り、事前の参加申し込みなど、期日に間に合わないのが予想外に多く、開催校としては心配もしていることでもあった。

この点は会員の協力を切にお願いしたい。



会員作品展



大会受付



会長挨拶



発表に聴き入る会員



開催大学による閉会の言葉



発表風景

【大会記念講演】

本学会では、大会記念講演として徳川美術館企画情報部長の四辻秀紀先生をお招きし、ご講演いただいた。演題は「平安時代の仮名書風と料紙の変遷」、本願寺本三十六人家集の美の世界について、スライドを用いて解説されたもので、有意義な時間となった。当日配布された資料の一部を掲載し、報告としたい。

「本願寺本三十六人家集の美の世界」

徳川美術館 企画情報部部长 四辻 秀紀

- ① 道風以後、又野跡の風也。行成卿は道風が跡を写すといへども、聊わが様を書出せり。其後は一条院の御代よりこのかた、白川（河）・鳥羽の時代まで、能書非能書も皆行成が風体也。法性寺関白出現之後、天下一向此様に成て、後白河以来時分如

【「入木抄」】

- ② 青き色紙一重ねに、いと草がちに、いかれる手の、その筋とも見えず漂ひたる書きざまも、下長に、わりなくゆゑばめり。くだりのほど、端さまに筋かひて、たふれぬべく見ゆるを

【「源氏物語」常夏】

- ③ よろづの事、むかしには劣りざまに、浅くなりゆく、世の末なれど、仮名のみなん、今の世は、いと際なく、かしこくなりたる。ふるき跡は、さだまれるやうにはあれど、ひろき心、ゆたかならず、一筋にかよひてなんありける。

【「源氏物語」梅枝】

- ④ 今日両院御経為調卷下給、院紫青相交料紙（中略）女院色々斑染帟、仁和寺兄宮書給、（中略）院御経水精花軸金伏輪、唐草金、表紙配付紫青斑羅上下表紙給、以銀堀物廻付上下事、非本意細工、共表紙短、仍匆廻此案、復見如兼結構、紐丸組也、琥魄露金笠、青如細劔目貫、（中略）女院銀堀物、外題如寺額、軸携水精、立金蓮花廿子料、経白紙面銀地薄、裏以黄金唐草
- 【「長秋記」大治四年（一二二九）九月二十九日】
- ⑤ 法皇御時初出来事、（中略）天下過差逐日倍增、金銀錦繡成下女装束事、
- 【「中右記」大治四年（一二二九）七月十八日】
- ⑥ 或人談云、本院年来御善根、絵像五千四百七十余体、生丈伍五体、丈六百廿七体、半丈六六体、等身 三千百五十体、三尺以下二千九百卅余体、七（堂敷）字塔二十一基、小塔四十四万六千六百卅余基、金泥一切経書写、此外秘法修善千万壇、不知其数、

【「中右記」大治四年（一二二九）七月十五日】

⑦ 色々之色紙下絵、左方女絵、右方男絵、皆書歌情歎、美麗過差無極

【中右記】寛治八年（一〇九四）八月十九日

⑧ 御調度御装束金銀錦繡、風流過差不可記

【中右記】長承元年（一一三二）十月三日

⑨ 経書、其料紙、内府詩清書、数多相積、以件料紙裏書之、香染之風流停止之

【玉葉】文治四年（一一八八）四月八日

本願寺本〈三十六人家集〉は藤原公任の撰になる『三十六人撰』に選ばれた三十六人の歌人の家集の最古本で、天永三年（一一二二）三月に催された白河法皇の六十賀の後宴に際しての贈物として調進された調度手本と考えられている。その後代々天皇家に伝えられたとみられるが、天文十八年（一五四九）に後奈良天皇から本願寺第十世の証如上人に下賜されて以降、同寺に伝来した。

もとは三十九帖一具であったが、「兼輔集」は鎌倉時代の、「人麿集」上下、「業平集」「小町集」の四帖は寛文二年（一六六二）の補写になり、さらに「貫之集」下及び「伊勢集」は昭和四年に分割され、本願寺がもった撰津の石山（現在の大阪城付近）に因んで「石山切」と名付けられて

諸家に分蔵されており、制作当初の冊子は三十二帖となっている。また早くに散逸してしまった「人麿集」の断簡二葉が「室町切」、「業平集」の断簡が「尾形切」として現存し、「順集」から流出した一部断簡が「岡寺切」「糟色紙」の名で知られている。

各帖は、当時の能書をはじめとする二十名の分筆書写になるとされ、次のように分類できる。

- 第一筆「人麿集」上下「貫之集」上
- 第二筆「貫之集」下「順集」「中務集」
- 第三筆「躬恒集」
- 第四筆「伊勢集」「友則集」「齋宮女御集」
- 第五筆「家持集」「能官集」上下
- 第六筆「赤人集」「小町集」（推定）
- 第七筆「業平集」「素性集」「兼輔集」（推定）
- 第八筆「遍照集」「頼基集」「敏行集」
- 第九筆「猿丸集」「敦忠集」「是則集」
- 第十筆「朝忠集」「公忠集」
- 第十一筆「高光集」「仲文集」
- 第十二筆「忠岑集」
- 第十三筆「重之集」「清正集」
- 第十四筆「宗于集」「小大君集」
- 第十五筆「信明集」

第十六筆「興風集」

第十七筆「元輔集」

第十八筆「元真集」

第十九筆「忠見集」

第二十筆「兼盛集」

このうち第一筆は、同筆とみられる遺品として『卷子本古今和歌集』（東京・大倉文化財団ほか蔵）、『元永本古今和歌集』（東京国立博物館蔵）などがあり、筆者を世尊寺第四世の藤原定実（定実の子）に当てて考える説がなされている。第二筆は小野道風筆『屏風土代』（御物）や藤原行成筆『白氏詩卷』（御物）に記された藤原定信（定実の子）の跋語と同筆で、定信の手になるとみなされる。また第三筆は、宮内庁本「躬恒集」の識語によって、白河院の女御であった藤原道子の筆蹟と推定されている。このほか、第五筆は『元暦校本万葉集』巻第十九（東京国立博物館蔵）と、第十三筆は「堺色紙」『大色紙』などと同筆であるが、筆者については未詳である。しかしいずれも白河法皇周辺の能書によるとみられ、当時の円熟した書雲の姿をつぶさうかがうことができる。

この「三十六人家集」で最も注目されるのは、当時の工芸技術の粋を尽した華麗な料紙である。六十余種にも及ぶさまざまな文様を刷り出した唐紙や打雲紙、羅文紙、陸奥紙、紙屋紙、あるいは漬染・漉きかけ・引染などの技法で染められた染め紙や紫・紅・茶の村濃染めや隈ぼかしの紙、墨流しを施した紙などが用いられている。さらに金銀の砂子や切箔・野毛

などが散らされ、金銀泥や群青・緑青などで蝶鳥や松・梅・柳・桜・藤・柑子・薄・女郎花・紅葉をはじめとする四季の草花の折枝文様が描かれて装飾が加えられている。時には「能宣集」上の巻頭の、春の景物である梅と片輪車に秋の薄を一面の中に配した図や「重之集」巻末に描かれた葦と舟、あるいは「元真集」の竹に群れ遊ぶ雀の図のように抒情性ゆたかな絵画が下絵となつていところもある。特に色調や装飾を違えた数種類の紙を継ぎ合わせた継紙は、「三十六人家集」の料紙装飾の中でも傑出した手法である。鋭い刃で直線に切った紙を継ぎ合わせた「切り継ぎ」、鈍刀で切口を破り裂いたように切つて継ぐ「破り継ぎ」、濃淡に染め分けた薄様五枚を重ねて同時に切り、その切り口を少しずつずらして切口の部分を糊付けにした「重ね継ぎ」などの手法がある。

その意匠の奇抜さや華麗さは他に類例がなく、優美な連綿の仮名とあいまつて、十二世紀初頭における宮廷の人々の「過差美麗」極まりない美の世界を余すところなく伝えている。



大会記念講演

平成18年度 全国大学書道学会 愛知大会 次第

9:10 受付

9:30 閉会式/総会

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 1. 開会の言葉 | 野中 浩俊 (新潟大学) |
| 2. 会場校挨拶 | 愛知教育大学 理事 鈴木 眞雄 |
| 3. 会長挨拶 | 小木 良一 (東京学芸大学名誉教授) |
| *議長選出 | 大橋 修一 (埼玉大学) |
| 4. 議事 | |
| 1) 平成17年度事業報告 | 石井 健 (東京学芸大学) |
| 2) 平成17年度決算報告 | 柿木原くみ (相模女子大学) |
| 3) 平成17年度監査報告 | 大橋 修一 (埼玉大学) |
| 4) 平成18年度事業計画 (案) | 石井 健 (東京学芸大学) |
| 5) 平成18年度予算 (案) | 柿木原くみ (相模女子大学) |
| 6) 役員の補充について | 野中 浩俊 (新潟大学) |
| 7) その他 | |
| 5. その他 | |
| 1) 研究紀要について | 横田 恭三 (跡見学園女子大学) |
| 2) 東洋学・アジア研究連絡協議会について | 横田 恭三 (跡見学園女子大学) |
| 3) 年次度開催大学挨拶 | 長沼 雅彦 (秋田大学) |
| 4) 新入会員紹介 | 事務局 |
| 5) その他 | |
| 6. 閉会の言葉 | 東 國恵 (徳島大学名誉教授) |

10:30 研究発表 (1) * 2分科会

【第1会場 (3階234会議室)】 (3件) 司会 鶴田 一雄 (新潟大学)

【第2会場 (3階231会議室)】 (3件) 司会 竹之内裕章 (佐賀大学)

発表1 10:30~11:00

発表2 11:00~11:30

発表3 11:30~12:00

12:00 昼食

13:00 大会記念講演 (第1会場 3階234会議室)

演題 「平安時代の仮名 一書風と料紙の変遷」

講師 四辻 秀紀 先生 (徳川美術館 企画情報部部长)

14:30 研究発表 (2)

【第1会場 (3階234会議室)】 (3件) 司会 大橋 修一 (埼玉大学)

発表1 14:30~15:00

発表2 15:00~15:30

発表3 15:30~16:00

16:00 分科会報告 研究発表 (1) 各分科会司会者

16:20 閉会の言葉 大学書道学会 平形 精一 (静岡大学)

開催大学 風岡 正明 (愛知教育大学)

研究発表

平成18年度 愛知大会 発表題目および発表者

〈研究発表1〉

第1会場

1. 九成宮醴泉銘における黄金比の存在
愛知教育大学大学院／愛知教育大学附属高等学校教諭 加藤真太郎
2. 弘文館を通して見た初唐の書の実相について
東京学芸大学大学院 徳泉 さち
3. 北魏孝文帝の漢化政策と書文化について
東京学芸大学助教授 橋本 栄一

第2会場

1. 墓誌変遷考
新潟大学大学院 坂井 昭彦
2. 「伝西行筆」の古筆の享受 —伝西行筆の書状について—
広島大学大学院 塩出智代美
3. 亀田鵬齋を中心とする近世文苑 —良寛との接点など
新潟大学助教授 岡村 浩

〈研究発表2〉

第1会場

1. 墓誌銘に見られる特殊な数字と処士について
愛媛大学助教授 東 賢司
2. 上藍天中の書風について
尚綱大学助教授 久多見 健
3. 楷書の発生 —東牌楼出土簡牘からみた後漢晩期の楷書書法
跡見学園女子大学助教授 横田 恭三

平成17年度 全国大学書道学会 事業報告

(平成17年)

| | |
|-----------|---|
| 3月31日 | 常任幹事会／三学会合同役員会〔平成17年度（千葉）大会について〕 |
| 4月中～下旬 | 千葉大会要項（第1次）作成 |
| 4月29日 | 千葉大会要項（第1次）、会員書作展出品要項、紀要、会報、会員書作展図録、 会員、会費払込用紙等発送 |
| 6月中旬 | 会員名簿整理 |
| 6月15日 | 千葉大会研究発表応募締切日 |
| 6月中～下旬 | 研究発表採否確認 |
| 7月3日 | 常任幹事会（千葉大会、研究発表者及び発表順、会場設定、総会議事案、役員改選、 東洋学・アジア研究連絡協議会等について）／三学会合同役員会 |
| 7月上旬 | 千葉大会研究発表採否通知 |
| 7月25日 | 会員書作展作品送付締切日 |
| 7月31日 | 千葉大会要項（第2次）、発表要旨集送付 |
| 9月20日 | 幹事会（千葉大会総会議事の検討） |
| 9月21日 | 平成17年度千葉大会（総会、研究発表、講演） |
| 9月22日 | 三学会合同懇親会 |
| 9月21～23日 | 平成17年度会員書作展 |
| 9月下～11月上旬 | 研究発表論文査読 |

(平成18年)

| | |
|-------|-------------------------------------|
| 1月～2月 | 紀要編集 |
| 2月18日 | 常任幹事会／三学会合同役員会（千葉大会反省、18年度愛知大会について） |

平成17年度 全国大学書道学会 決算報告

| | |
|--------------------|------------|
| A・〔収入の部〕 | |
| 1) 平成16年度繰越金 | 1,937,513円 |
| 2) 平成17年度会費（183名） | 1,314,000円 |
| 合 計（A） | 3,251,513円 |
| B・〔支出の部〕 | |
| 1) 千葉大会運営費（含む講師謝礼） | 270,000円 |
| 2) 幹事会費 | 373,457円 |
| 3) 通信費 | 189,070円 |
| 4) 会員書作展図録作成費 | 360,000円 |
| 5) 研究紀要作成費 | 336,000円 |
| 6) 事務費 | 67,444円 |
| 7) 予備費（弔電1件） | 4,462円 |
| 合 計（B） | 1,600,433円 |

| |
|---|
| (A) 総収入－(B) 総支出＝ 残 高 3,251,513 － 1,600,433 ＝ 1,651,080 円（次年度繰越金） |
|---|

上記の通り報告いたします。

平成18年5月20日 事務局会計担当 柿木原くみ

以上相違ありません。

平成18年5月28日 監 事 前田舜次郎

平成18年度 全国大学書道学会 事業計画

(平成18年)

| | |
|------------|---|
| 4月15日 | 常任幹事会／三学会合同役員会（平成18年度愛知大会について） |
| 4月中～下旬 | 愛知大会要項作成 |
| 5月30日 | 愛知大会要項（第1次）、会員書作展出品要項、紀要、会報、会員書作展図録、会員票、会費払込用紙等 発送 |
| 6月中旬 | 会員名簿整理開始 |
| 6月28日 | 愛知大会研究発表応募締切日 |
| 7月初～中旬 | 研究発表採否確認 |
| 7月15日 | 常任幹事会（愛知大会、研究発表者及び発表順、会場設定、総会議事案、役員補充日本学術会議東洋学研連の活動等 について）／三学会合同役員会 |
| 7月31日 | 会員書作展作品送付締切日 |
| 8月上旬 | 研究発表採否通知 |
| 8月31日 | 愛知大会要項（第2次）、発表要旨集送付 |
| 10月2日 | 幹事会（愛知大会総会議事検討） |
| 10月3日 | 書道三学会合同懇親会 |
| 10月4日 | 平成18年度愛知大会（総会、研究発表、講演） |
| 10月2日～4日 | 平成18年度会員書作展 |
| 10月下～11月上旬 | 研究発表論文査読 |

(平成19年)

| | |
|-------|-------------------------------------|
| 1月～2月 | 紀要編集 |
| 3月10日 | 常任幹事会／三学会合同役員会（愛知大会反省、19年度秋田大会について） |

平成18年度 全国大学書道学会 予算

| | |
|--------------------------|------------|
| A・〔収入の部〕 | |
| 1) 平成17年度繰越金 | 1,650,880円 |
| 2) 平成18年度会費（190名） | 1,140,000円 |
| 合 計（A） | 2,790,880円 |
| B・〔支出の部〕 | |
| 1) 愛知大会運営費（含む講師謝礼） | 300,000円 |
| 2) 幹事会費 | 500,000円 |
| 3) 通信費 | 250,000円 |
| 4) 印刷費 | |
| 会員書作展図録 | 360,000円 |
| 研究紀要 | 400,000円 |
| 封筒 | 100,000円 |
| 5) 事務費（事務補助費、会費払込手数料を含む） | 100,000円 |
| 6) 予備費 | 780,880円 |
| 合 計（B） | 2,790,880円 |

平成十八年度 全国大学書道学会

新入会員

| | |
|-------|----------------|
| 海野 正治 | 了徳寺大学客員教授 |
| 長沼 雅彦 | 秋田大学教授 |
| 森 常雄 | 立正大学非常勤講師 |
| 細谷菜穂子 | 了徳寺大学客員教授 |
| 岡田 新子 | 武庫川女子大学副手 |
| 加藤真太郎 | 愛知教育大学附属高等学校教諭 |
| 樋口 咲子 | 千葉大学助教 |
| 小林比出代 | 松本深志高校教諭 |
| 谷口 邦彦 | 安田女子大学助教 |
| 萩 信雄 | 安田女子大学助教 |
| 湯澤 聡 | 安田女子大学助教 |
| 大平 玲華 | 了徳寺大学客員教授 |

新入準会員

| | |
|-------|-----------|
| 小原みどり | 新潟大学大学院 |
| 本田 容子 | 東京学芸大学大学院 |
| 平原 温子 | 東京学芸大学大学院 |
| 清水 文博 | 東京学芸大学大学院 |
| 柳田さやか | 東京学芸大学大学院 |
| 相川 匡也 | 東京学芸大学大学院 |
| 秋元 正成 | 福岡教育大学大学院 |
| 八長 康晴 | 上越教育大学大学院 |
| 伊澤 遵 | 新潟大学大学院 |
| 馬場 隆徳 | 新潟大学大学院 |
| 加藤 豊俣 | 佐藤 晃弘 |
| 宮川ちえ子 | 福井 有香 |
| 中村 重勝 | |

退会申出者

新入会員推薦のお願い

会員の先生から、新入会員・準会員をご推薦いただき、さらに本会の充実を図りたいと考えております。「規約」と「新入会員用会員原票（入会申込書）」をとじておきましたので、よろしくお願いたします。

※「新入会員用会員原票（入会申込書）」に記入の上、事務局（下記所在地）まで郵送してください。
 ※年会費は、会員6,000円・準会員5,000円です。なお、大学院修了後は、会員の資格として扱います。
 送金は、必ず郵便振替（青色用紙）でお願いします。（用紙の通信欄に、「新入会員」もしくは「新入準会員」と明記してください。）振込先は下記の通りです。

■口座番号 00110-9-613810 ■加入者名 全国大学書道学会

〈事務局〉〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1

東京学芸大学 教育学部 美術・書道講座

石井 健 研究室内 TEL/FAX 042-329-7611

全国大学書道学会

| | | |
|--|--|--|
| | | |
|--|--|--|

全国大学書道学会 新入会員（準会員）用会員原票（入会申込書）

〔会員・準会員〕どちらかに○

会員番号 ※

—

| | | |
|---|---|--------|
| 郵便番号 〒 | | — |
| 住所（自宅） | | |
| 帰省先（大学院生のみ記入） 〒 | | — |
| ふりがな | 氏名 | 雅号 |
| 電話（自宅） | () | |
| FAX（自宅） | () | |
| e-mail | | 自宅・勤務先 |
| 所属機関 | 名称 | |
| | 名誉教授 教授 准教授 専任講師 助教・助手 非常勤講師 教諭 その他 () 準会員：大学院 博士課程 修士課程 | |
| 所在地（所属機関） 〒 | | — |
| 電話（所属機関） | | () |
| FAX（所属機関） | | () |
| 推薦者（会員）氏名 | | |
| 推薦理由 | | |
| <small> 本会規約第2条に定めた資格（国公立大学・短期大学・付属学校・専門学校の書道担当教員、及び元会員）に該当する方は、推薦者及び推薦理由の記入は不要です。 </small> | | |

*ご記入いただいた住所・氏名等の情報は、本学会事務のために利用し、そのほかの目的では利用しません。

*事務局〔会計担当〕相模女子大学 柿木原くみ 宛 郵送願います。